



人間ドック受診費用の一部助成

佐藤 一郎



問 施政方針で人間ドック受診費用の一部助成を実施するとあるが、助成対象の年齢を伺う。

健康増進課長 国民健康保険の被保険者で、受診日の属する年度に年齢が40歳、45歳、50歳、55歳、60歳、65歳、70歳に達する方を対象に考えています。

問 受診費用の助成対象となる検査項目、対象部位等を伺う。

健康増進課長 市が行う特定健康審査の基本項目のほかに、心電図検査、眼底検査、呼吸器系検査、消化器系検査、大腸検査を含めた検査項目を考えています。

問 内視鏡検査(胃、大腸検査)も受診費用助成の対象となるのか。

健康増進課長 人間ドック助成の考え方としては、受診した検査項目に含まれていれば助成の対象と考えます。

問 受診費用の助成に係る申請手続はどうなるのか。

健康増進課長 償還払い方法で、人間ドックを受診した後、申請書に人間ドックの検査結果と領収書、振込先金融機関等の口座等を添え

て提出していただくことを考えています。

受診費用の負担どうなる

問 受診費用の負担の割合はどうなるのか。

健康増進課長 助成金額は、対象者一人につき2万円を上限に考えています。

問 市内、市外医療機関の受入体制はどのようになるのか。

健康増進課長 市内では、1カ所の医療機関で受診可能と把握し、市外では、30カ所以上の医療機関や健診団体を把握しています。

問 4月から人間ドックを受けられるが、市民への周知をどのように考えているのか。

健康増進課長 4月の広報いわぬまと、市のホームページでの周知。また、特定健康診査をする際、国民健康保険の被保険者全員に受診票と人間ドックの案内チラシを入れることも検討中です。

◎その他の一般質問  
・仙台空港を活かした新たなまちづくり



SDGs (持続可能な開発目標)

大村 晃一



問 環境未来都市に選定された岩沼市が、なぜ今までSDGs(※未来都市)に応募しなかったのか伺う。

総務部長 環境未来都市については、岩沼市の復興を進めていくために国の選定を受けたものです。

SDGsの取組は、SDGs未来都市の手法を原動力として、これから取り組んでいく地方創生の中で選定できるような事業があれば、選定に向け準備をしていきたいと考えています。

今後SDGs申請予定は

問 今後早い段階でSDGs未来都市へ申請する予定はあるか、見解を伺う。

市長 SDGsに力を集中させていった結果、岩沼市として本当にメリットがあるのか、ただSDGsの承認市ということだけなのか、随分研究をさせてもらっています。これから、SDGsが中心になるかとは思いますが、こういった国際基準に沿ってまちづくりを進めていくことは、方向性は一緒だと思います。できるだけ早

く事業を選定して、SDGsに取り組んでいきたいと思えます。

問 岩沼市中小企業・小規模企業振興基本条例なども活用した発信を行うてはどうか伺う。

総務部長 この条例の基本理念は、SDGsを進めていく上で大変重要だと思えますので、この条例も活用しながら、企業の皆さまと情報発信をしていきたいと思えます。

問 現在、なぜSDGsが必要なのかを体験的に理解し学ぶために企業、自治体、学校などさまざまなところで導入されているカードゲーム「2030SDGs」を岩沼市も導入してはどうか伺う。

政策企画課長 SDGsの理解と普及を促進する有効な手段の一つであると伺っていますので、研究をさせていただきたいと思えます。

※ SDGsとは

より良い世界を目指す国際目標として、17項目の目標があり、それを達成するための169のターゲットで構成されている。

◎その他の一般質問  
・指定避難所と避難場所

・指定避難所と避難場所